

排出ガス浄化性能の維持のために

★ガソリンを補給するときは

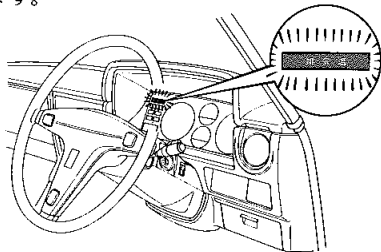
必ず無鉛レギュラー・ガソリンを補給しましょう。



有鉛ガソリンやガソリン添加剤を使用すると触媒装置の浄化性能を損います。

★排気温警告灯が点灯したときは

触媒装置の温度が高くなったことを示します。



このままで運転を続けると触媒装置の浄化性能を損うおそれがありますので必ず次の処置をしてください。

1. 走行中は速度を落してください。

警告灯が点灯したときの、半分程度に速度を落して走行してください。普通は数分内に消灯します。

2. 停車中は、エンジンを止めて冷却するまで放置してください。冷却した後は再びエンジン・キーをONにしても点灯しません。

警告灯が消灯した場合はもとのように走行できます。たびたび点灯する場合は、そのまま使用せず、サービス工場で点検整備を受けてください。

★バッテリー上がりのときは

長坂路で車を押ししたり、けん引によるエンジン始動はやめましょう。

ブースター・ケーブルを使用して他車のバッテリーを借りるか、充電をしてから始動してください。

★チャージ・ウォーニング・ランプが点灯したときは

そのまま運転を続けると、点火能力が低下し触媒装置に損傷を与えるおそれがありますので、整備を受けてください。

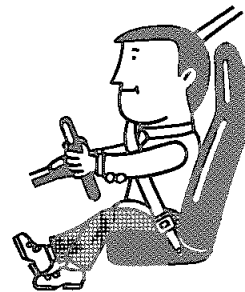
これだけはぜひ！
守りましょう！

安全運転のために

★正しいドライビング・ポジションは

急カーブや振動に対して身体がふらつかず、両手両足を敏速かつ、正確に動かせる姿勢です。

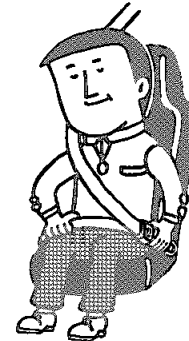
また前後の視界が十分確保でき、長距離運転にも疲れにくい姿勢であることも大切です。（シートの調整の項目参照）



★シート・ベルトは

必ず装着して運転しましょう。腰ベルトは腰骨の位置にぴったりと装着しましょう。

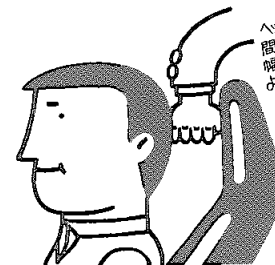
（シート・ベルトを忘れずにの項目参照）



腹の位置にかけると万一のとき身体に食い込み危険です。

★ヘッド・レストの位置は

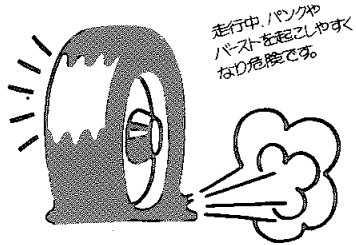
ヘッド・レストを頭の後方の位置になるようにしましょう。正しい位置にしないと危険防止に役立ちません。（ヘッド・レストを正しい位置にの項目参照）



ヘッドレストの間は首の骨の隙間にあてないようしましょう。

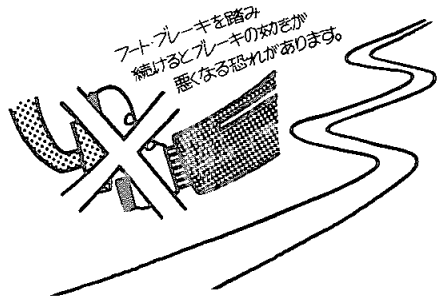
★タイヤは

1. 走行前に必ず空気圧を点検しましょう。
(タイヤの空気圧の項目参照)
2. 摩耗して溝が浅くなったら取り替えましょう。
(タイヤの溝の深さの項目参照)



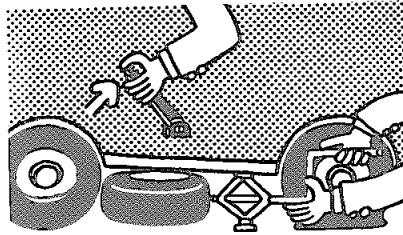
★長い坂道を下る場合は

エンジン・ブレーキを活用しましょう。
(ブレーキ、クラッチの使いかたの項目参照)



★ジャッキを使用するときは

所定の位置に確実にセットしましょう。
輪止め、パーキング・ブレーキを忘れず。
(パンクの処置の項目参照)

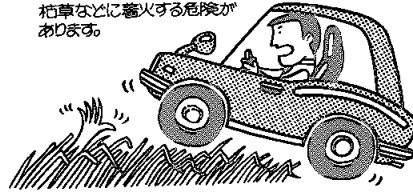


ジャッキがはずれると
車が急に傾き大変
危険です。

★駐停車するときは

1. 枯草など燃えやすいものの付近や上に車を乗り入れたり、駐停車しないでください。

排気管付近はかなり高い温度になるので、万一の場合、枯草などに着火する危険があります。



★注意

- やむを得ず枯草などの中に入り、駐停車する場合は
- (1) エンジンを必ず止めてください。
 - (2) 走行する前に枯草などの燃えやすいものが、排気管に巻き付いたりしていないか点検してください。
2. 車庫内に車を止めるときは排気管の後方に紙、布、ムシロ、油脂、古タイヤなどの燃えやすいものを置かないでください。また、木材、ベニヤ板などが後方にある場合は必ず車両後端か

- ら30cm以上離れていることを確認してください。排気ガスによって変色や変形したり着火する危険があります。
3. 密閉した車庫内などで、エンジンをかけたままにしないでください。

★走行中エンジン・スイッチを切らないでください。

1. ブレーキ・プースタが作用しないのでブレーキの効が悪くなります。
2. パワー・ステアリング付き車はハンドル操作が重くなります。
3. 触媒装置に損傷を与えることがあります。

★エンジンを停止する場合は

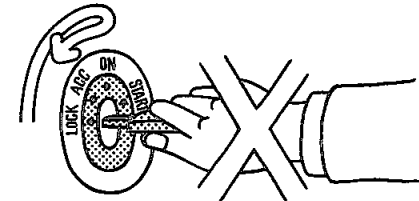
空ふかし直後にはエンジン・スイッチを切らないでアイドリング状態でエンジン・スイッチを切ってください。

★注意

空ふかしはやめましょう。人に迷惑をかけ車のためにもよくありません。

★エンジンを停止して移動する場合は (けん引される場合など)

1. エンジン・スイッチは一度ONにしてからACCの位置にしましょう。
(エンジン・スイッチの項目参照)



走行中はキーを絶対にロックの位置に回さないでください。危険です。

2. ブレーキ・プースタは作動しませんので通常より大きな踏力が必要です。

★適切な暖機運転をしましょう。

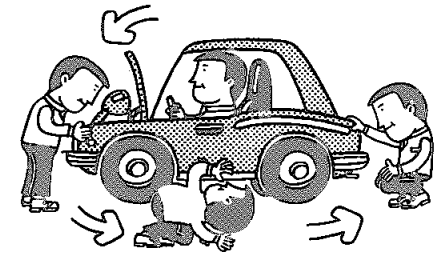
エンジンが冷えているときは、出力の低下、走行性能の悪化など、車本来の性能が十分に発揮できません。
暖機方法は“エンジンを始動するには”の項を参照してください。

★注意

暖機運転のとき、エンジンを高回転のまま10分以上放置しないでください。

★作業点検は

故障を未然に防ぐため、必ず行ないましょう。
(作業点検の項目参照)



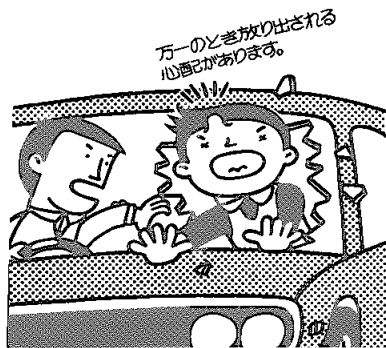
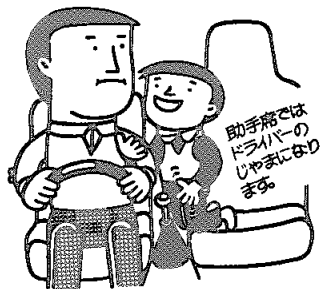
★定期点検は

法令でも定められていますので整備手帳に基づいて必ず行ないましょう。

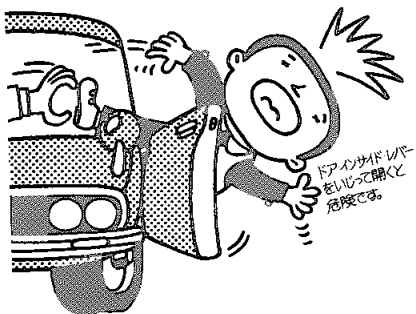


お子様を乗せる ときは

★なるべくおとなと一緒にリヤ・シート
にすわらせましょう。



★ドアのロックを確実にしましょう。

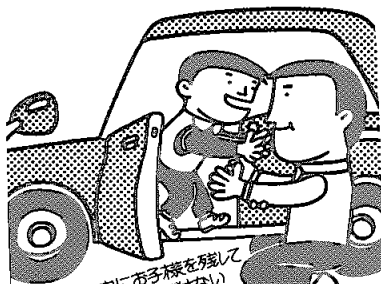


ロックをすれば、ドア・インサイド・ハンドルをいじっても、ドアは開きません。

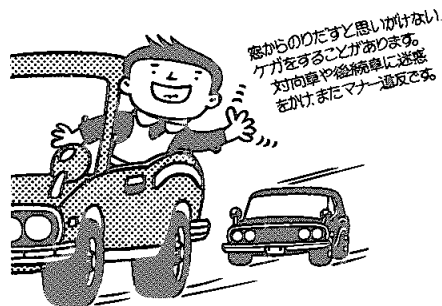
★必ずおとながドアの開閉をしましょう。



★車から離れるときは、お子様と一緒に連れて行きましょう。



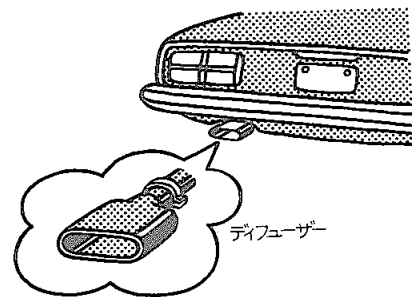
★窓から顔や手などを出させないようにしましょう。



故障を防ぐために

★排気管出口についているディフューザーについて

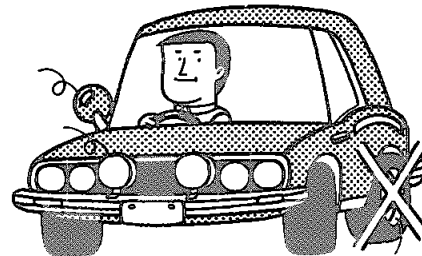
ディフューザーは、排気ガスの温度を下げるためのものですから、取りはずしたり改造しないでください。また、ディフューザーが損傷した場合はサービス工場で整備を受けてください。



★車に装着する部品は

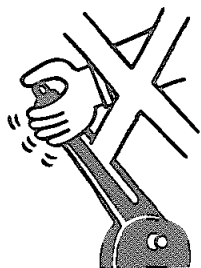
車の構造に適した純正部品を使用しましょう。

特に車の走行に関連するところにはメーカーが運輸省に届出をした指定の部品以外は使用しないでください。



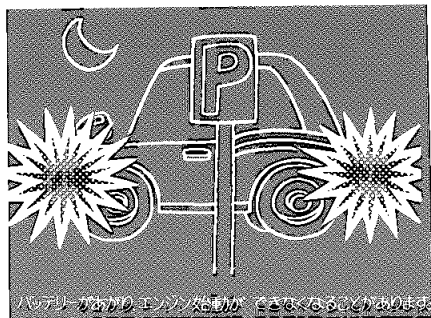
車の性能や機能に適した部品を装着しないと思いがけない事故が発生する場合があります。

★パーキング・ブレーキ・レバーは
走行する前に必ず確実にもとの位置まで
もどし、ブレーキ・ウォーニング・ランプ
が消灯するのを確かめてください。
(パーキング・ブレーキ・レバーについての
項目参照)



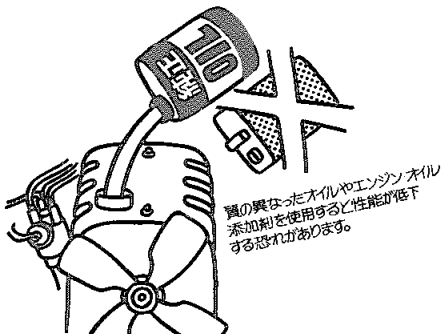
引いたまま走行すると
引きずりを起こし
ブレーキが効かなくな
ります。

★バッテリーは
完全充電でもエンジンを停止してランプ
類を使用すると消耗が激しいものです。



バッテリーが残りエンジンが止まるとランプが点滅することがあります。

★エンジン・オイルの補給は
同品質のオイルを使用しましょう。
なお、エンジン・オイル添加剤を使用する
ときは、トヨタの推奨する添加剤を使用
しましょう。
(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)



質の異なるオイルやエンジンオイル
添加剤を使用すると性能が低下
する恐れがあります。

★ブレーキ、クラッチ・フルードを補給
するときは
同品質、同銘柄のフルードを必ず使いま
しょう。なお、タンク内にゴミがはいら
ないように十分注意しましょう。
(トヨタ純正キャッスル製品の項目参照)

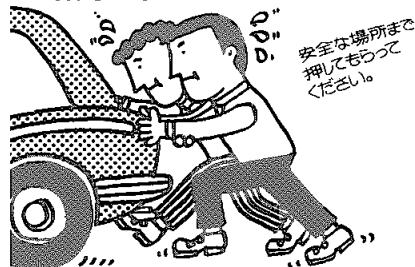


ゴミが入るとブレーキが
効かなくなったり、
クラッチが切れなくなる
ことがあります。

万一のときは——

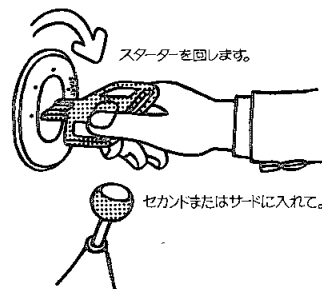
★エンストして始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所ま
で押してもらってください。

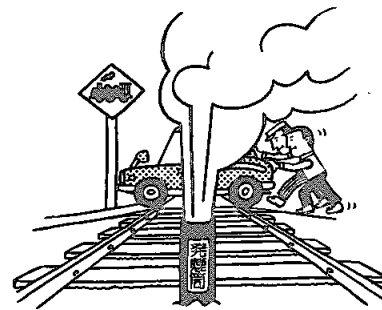


2. マニュアル・トランスミッション車
の場合、急を要するときはスター
ターで抜け出してください。ギヤをセ
カンドまたはサードに入れ、スター
ターを回します。

このときクラッチから足を離してお
きます。また平坦路の場合はトップ
にすると早く抜け出せます。



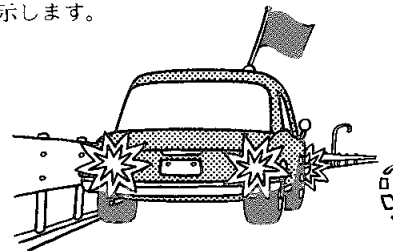
3. 踏み切りなどで動かなくなったり、
電車が来そうになったら保安炎筒で
合図してください。



★高速走行中、パンクやバースト(タイヤ
の空気が急に抜けること)したとき
ハンドルをしっかりもって急ブレーキは
踏まないようにしましょう。
急ブレーキを踏むとハンドルを強くとら
れ、車が横転することがあります。

★故障したら

車を路肩に寄せハザード・ウォーニング・
ランプを点滅させるか、または故障車と
わかるように赤旗などを目につくよう表
示します。



★遠出して故障し、なおせないときは
整備手帳のサービス網をご覧になって、
最寄りの取り扱い販売店へ連絡しましょう。